

令和3年度四万十町教育研究所 第2回運営委員会会議録（要旨）

- 1 日時 令和4年3月14日（木）15：00～16：30
- 2 場所 四万十町農村環境改善センター 大会議室
- 3 出席者
運営委員 坂本益英 本山真美 上野貴裕 武政仁美 石崎豊史
戸田晶秀 池田利恵（欠席） 真城和也
事務局 山脇教育長 浜田教育次長 岡課長
野村所長 浜口研究員 山崎教育相談員 伊賀教育相談員
芝SSW 榊山指導員 小野川指導員 中津指導員
- 4 傍聴者 0名
- 5 日程
 - (1) 教育長挨拶
 - (2) 事業報告
 - (3) 協議
 - ① 令和3年度の教育研究所活動内容について
 - ② 令和4年度に向けて
 - ③ その他
- 6 事業報告
 - (1) 教育研究活動（研究員の調査研究テーマ）
事務局より 資料（事業報告案）P1～P2及びパワーポイントにて説明
 - (2) 学校研究支援
 - ① Q-U・hyper-QUの取り組み
 - ② 「いのちの学習」の取り組み
 - ③ 校内研修支援
事務局より 資料P3～P5及びパワーポイントにて説明
 - (3) 教育支援センターの運営
事務局より 資料P6～P7及びパワーポイントにて説明
 - (4) 教育相談活動（教育相談員・SSW）
事務局より 資料P8～P9及びパワーポイントにて説明
 - (5) 研究協力校の取り組み
事務局より 資料P10～P13及びパワーポイントにて説明
 - (6) 副読本「わたしたちのまち 四万十町」検証

事務局より 資料P14 及びパワーポイントにて説明

(7) 四万十教科書センターの運営

事務局より 資料P15 及びパワーポイントにて説明

(8) その他の取り組み

①研修会

②所内会・全体会

③教育研究所たより「しまんと」

④えんぴつの持ち方教室

事務局より 資料P16～19 及びパワーポイントにて説明

7 協議

(1) 令和3年度の教育研究所事業報告について【質疑】

石崎委員 : 8 ページにさらに就学前の厳しい環境とあるが、四万十町としてどういう環境にあるのか。

事務局野村 : 経済的困窮、多いのは発達特性が多い。2月末から3月に円滑に入学できるよう。厳しいのは経済的、ひとり親家庭、特性があったり、手助けが必要。

石崎委員 : 子どもをたたくこともある？

事務局芝 : 保育士さんに話を聞く活動をしているが、ネグレクトで子どもの面倒を見ないだとか、腹いせが子どもにいく。貧困、生活習慣の乱れ、そういう子どもさんがいるのは確か。

石崎委員 : よその県では死に至ったケースがあるが、四万十町では行政と連携できているか。

事務局芝 : 要対協とか連携できている。

事務局野村 : サポステ等 SSW がしてくれている。スムーズにするのは難しいが。

戸田委員 : 8 ページに学校に入りづらい場合があったとあるが受け入れ体制の問題？校長の姿勢？研究所が出来、所長になって14年、まだこんなことがあるのか。学校との連携をいかにとっていくか。難しいことがあるんですね。

事務局伊賀 : 我々も入りこんでいきやすい学校とそうでない学校がある。敷居の高さというか学校の体制とのギャップやずれを感じることもある。

こちらのやり方や入っていき方もあるが、情報を提供してもらいやすい等ギャップはある。

事務局野村 : たとえば、不登校がいることを把握しているが伝わってこないという現実がある。なかなかつながりにくいことがある。

支援センターでお預かりしている子と不登校の子とギャップがある。SSW や相談員の業務は校長会等でお知らせしている。分かっている人は分かっている。

戸田委員 : 支援センターを立ち上げた時には、こういうことがあった。養護の先生でさえどこにある？といったことも。まだこんなことがあるのか。

事務局野村 : 学校で何とかするのかもしれないということかも。

戸田委員 : 近所の子で「あの子は学校へ行きゆうやろか。」と情報があるが、そういうのが入ってくればいいが。

事務局野村 : 学校が言ってくれるのが一番いい。

戸田委員 : 課題を抱えている子がいるけど、どこから手助けしていいか。ヤングケアラーという事例は四万十町ではあるのか。

事務局野村 : 耳にしたのは何件かある。ごはんを作って食べさせている子の1件だけ。

戸田委員 : 実際あるんですね。

事務局野村 : 世話したり、お手伝いしたりすることで認められたという承認欲求があるのでは。

戸田委員 : 先ほど SNS のことが出されていたが、調子が悪くて病院へ行ったという親がいたが SNS のしすぎとのこと。親がそうだから悪い影響が起きていたら大変。

事務局野村 : 少年補導センターが情報モラルの出前教室をしたり、クリアファイルを学校へ配布したりしている。誹謗中傷もないことはない。(1 学期)

事務局野村 : 少年補導センターには、写真を出したら特定されますよと注意が警察からまわってきて学校へもまわっている。

戸田委員 : 「親の集い」や親子遠足とあったが、ぜひ続けてもらいたい。広げてもらいたい。

事務局山崎 : 「親の集い」ですが、不登校ひきこもり支援会の研修で親が元気がなくなると子どももなくなる。2 学期に社会福祉協議会の不登校担当、四万十市、宿毛市、四万十町 3 名でやった。話し合いをした。

戸田先生はわかると思うのですが、食堂で3ヶ月働いたが、うまくいかず。ひきこもり・・・その親がきた。妹は量販店の裏で働いている。

2名の親は涙を流しながら思いを話した。やってよかった。

事務局野村 : 支援センターでも遠足に行きましたが。

事務局榊山 : SC が毎月きてくれた。相談をうながしたけど、顔が見えていないのでなかなかつながらなかった。SC 来室日に合わせて遠足を設定した。敷居がちょっと下がった。話してみないかといったら話にきてくれる親がいた。会ってみて話をしなければいけないと思った。

坂本委員 : 相談活動に関する質疑が多かったが、他にはありませんか。

坂本委員 : 就学前からのつながりについて話をさせて下さい。個別の支援会を本校もお願いした。保小の連絡会もあるが、医療や健康福祉課とつなげてもらえるのが大きなメリットである。特性に応じた支援が必要。学校のコーディネーターからつなぐのがいいが、SSW が音頭をとってやってくれている。小規模校では調整が難しい。継続してやってほしい。貧困やネグレクトだけでなく指導特性上気をつける子も含めて見守っていく。学校と研究所との間、校長会でも話をしていかないかん。私自身も他のところで研指をしていた時に学校に支援を持ちかけても学校から「うちは家庭訪問していますよ。」との返答。学校としてはやっているのでお互いが少し心を開いていければ。支援センターもつながっていければ。学校もちゃんとやっているという自負もあるので。

事務局野村 : ありがとうございます。

坂本委員 : 他にございませんか。

坂本委員 : 4年度に向けて、所長からありませんか。

事務局野村 : 業務改善をしてすっきりさせていきたい。個別に対応するシートをつくる。対応する職員が目標をもって接することが大事。そこを提案していく。支援会は学校あつてのこと。学校と研究所との距離ができてはいけないが、距離感もたいせつにしながらやっていく。多様な子への対応は大変ですがすっきりさせていく。

坂本委員 : 個別に対応するシートという話もあったが昨年より進んでいるように思う。

坂本委員 : 他にありませんか。

以上

(閉会)